

中国学を考え直すー中国学研究と漢文教育の発展を目指してー

中村 聡

【要旨】

語学は別として、大学で中国学を学ぶ学生の何割がそれを専門として学んでいるのでしょうか。そのような統計調査は見たことはありませんが、その数がひじょうに少ないであろうことは容易に推測できます。大学で中国学を学んでいる学生の多くは教養科目の一つとして、あるいは中学・高校の国語科教員免許状取得のための必要科目として履修・修得している場合が多いように思われます。

このような状況の中で、中国学を専門とする大学教員は、この実情をどの程度意識しているのでしょうか。また、この現実の中でどのように研究と教育に携わるべきなのでしょう。研究と教育は大学教員の努めです。両立は不可欠です。だからこそ難しい問題なのです。拙い経験の中からいくつかの問題点を取り出して考えてみたいと思います。

※ ここで分類する教員の意識、学生の履修状況や中国学に対する興味については、個人差を考慮していない。あくまで一般論と捉えている。

1. どのような学生が中国学（文学・哲学）を履修しているのか

I 中国学を専攻している学生

II 国文学・日本史学・アジア史学・アジア学を専攻しており、卒業単位の一部として中国学を履修している学生

III 国語科教職（中・高）免許状取得のために中国学を履修している学生

IV 教養科目の一つとして中国学を履修している学生

2. **II**の学生の特性（意識）

① これらの学生は、属している学科、学生の学問的興味の方向性によって濃淡が出る。

② 例えば、アジア史学、アジア学（含民俗学など）を専攻する学生は、**I**の学生に近いと考えられる。

③ 国文学でも比較文学、史学専攻でも日中交渉史等に興味があるとすれば**I**の学生に近いと思われる。

④ 純然たる国文学に興味があれば、**III**の学生に近いと考えられる。

3. **III**の学生の特性（意識）

① 真面目だが

- ② 中国学（漢文）には殆ど興味なし
⇒主たる興味は教育学（含指導法）、国語学、国文学にあつて、中国学（漢文）は読めて訳すことができれば御の字。中国学（漢文）は指導書で済まそう。
- ③ 中国学（漢文）は単位さえ取れば、それでよい。
- ④ 免許状を取得さえすれば or 採用試験に受ければ or 教壇に立ってしまえば、何とかなる。

4. 中国学専門教員の意識と対処

Iの場合⇒ 中国学専攻なのだから、当然専門教育を行う。

IVの場合⇒ 教養として中国学の一端を味わってもらいたい。（概論中心+いくつかの参考文献）

※ それでは、**II・III**の学生に対してはどうか。

IIの学生に対して

- ① **I**の学生と同等、或いは**I**に準ずる学生と見做し、**I**と同じ教材を使用して講義する。⇒履修する学生の学問的興味、専門性によって可能となる場合がある。
- ② 学生の専門性を考慮したうえで、独自の教材を用意し、教授法もそれに合わせる。
ex. 国文学科学生には比較文学を中心とした教材（白居易等）を用意し、日中の文化の同異について講義する。
⇔ 教員の専門性に関する部分がある。
- ③ （②に近いが国文以外の場合）**I**と**IV**との中間と捉え、それに見合う教材を用意する。⇒かなり難しい（哲学・文学の範囲から逸脱する可能性がある） ex. 仏教学⇒仏教漢文

IIIの学生に対して

- ① **I**の学生と同等、或いは**I**に準ずる学生と見做し、**I**と同じ教材を使用して講義する。⇒まず無理。
- ② **IV**の学生と同程度と見做し、**IV**と同程度の教材を使用する。⇒内容が薄くなり、教員を志す学生に対する授業としては不十分である。
- ③ **IV**の学生との差（単なる教養との差）を意識する。
 - 1) 授業中心か （教員となった者に資するか）
 - 2) 講義は最小限か （どこまで通ずるか）

※ 「講義」と「授業」

「講義」：義を講ずる。自分が研究し、現在これがその分野で最先端であり、真理

であると認識しているモノを学生に講ずる。

「授業」：業を授ける。学びの方法論を中心に、読解の仕方等の方法・手段を教える。

5. 問題となるのは「Ⅲ 国語科教職（中高）免許状取得のために中国学を履修している学生」＋「Ⅱのうち、純然たる国文学だけを学びたいと考えている学生」に「何を」「どの程度」教えればよいのか？（実は、この分類の学生がひじょうに多く、このような学生のために中国学研究者が大学に招聘されていることが多い）

- ① 一つの文献を徹底して（註まで含めて）読み込むのか。

ex. 『論語』→『論語集注』等を用いて、各註による読み方の違いを経験する。

⇒ 一つの文献を継続して読んでいく面白みを知ることができる。

⇔ 他の文献に接触することがなく、他の文献の読み方が分からない。

⇒ 講義・演習型

- ② 哲学・文学を中心として幅広い分野の文章・韻文を読むのか。

ex. 有名な散文・韻文を数多く読み、各文の重要点を学ぶ。

⇒ 数多くの文章を読むことができ、各文のポイントを学ぶことができる。

⇔ 各文章に「註」があることなど知らず、教科書的に本文を解釈するだけ。

⇒ 授業型

- ③ ①＋②の混合型が一番良いのか。

1) 有名な散文・韻文を数多く読める。⇔ そのような教科書があるのか。

※ 八木章好編著『中国古典文学二十講-概説と作品選読』白帝社

2) 教材は各教員が作るのか。⇔ 専門に偏る可能性大。

※ 全国漢文教育学会編著で作れないか？

3) 「註・疏」の存在とそれによる解釈の差等をどの程度教えるか。

4) ①と②（含散文と韻文の割合）の割合はどの程度か。

- ④ 文学史・哲学史は教えるのか。教えるとすれば、どの程度か。

⑤ 白話小説（ex. 魯迅）は？⇒中国語を学んでいないと無理。

6. 「Ⅲ 国語科教職（中高）免許状取得のために中国学を履修している学生」＋「Ⅱのうち、純然たる国文学だけを学びたいと考えている学生」に対して、あるいはそのような学生を主として教えている教員に対して、**全国漢文教育学会**は何を爲すべきなのか。（今までの中国学研究者の意識と実態の差を知る）

- ① 現在、大学で中国学を学んでいる学生の中で、この分類に属す学生がいかに多いか(%)を把握する必要がある。
- ② この分類に属す学生の調査(研究、学習意識・理解度等)が必要となる。
- ③ この分類に属す学生に教え、講義する内容をある程度考える必要がある。
- ④ この分類に属す各大学の考え方、講座設定の意義、教授内容の在り方を調査する必要がある。(今まで、各教員のスタンスだけに頼っていなかったか)
- ⑤ この分類に属す学生に対する教育の在り方を提案できないか。
- ⑥ この分類に属す学生に対するテキストの編集は考えられないか。
- ⑦ 中国学(漢文学)の重要性を訴える視点は提供できないか。

7. 今までの中国学研究とは異なった視線を持つ必要性

- ① 古典学研究は重要かつ欠かすことのできない分野ではある。
- ② 若手研究者の新しい視点、研究方法が育ってきているか。
- ③ 中国学(漢文学)の閉鎖性を感じないか。
- ④ 中国学研究の幅を広げる余地はないのか。(他の分野との collaboration) ⇒ 歴史学・経済学史・他国文化等

小結

「Iの場合⇒中国学専攻なのだから、当然専門教育を行う」としたが、実はこの分類の学生でも、学部段階では「受かったからこの学科にきた」程度 mismatches 学生も多いのが、現状なのではないでしょうか。これは過去にもあった現象なのかもしれませんし、「新しい目を持つ」ことが大学での一つの働きであるならば、当然のことなのかもしれません。

しかし、**全国漢文教育学会**の目標は、いかに多くの学生に中国学(漢文学)の面白さを伝え、それを人生の教養の一つとして生きていく人間を増やすことなのではないでしょうか。**II・III・IV**の学生が多いのであれば、その学生たちに向けての方策があつて当然ではありませんか。大学だけの問題ではありません。既に中学・高校の段階で「漢文嫌い」を大量生産しては話になりません。今こそ、学会の真価が問われる時ではないでしょうか。中国学(漢文学)の面白さを多くの若い人々に伝え、底辺を広めてこそ、より高い頂上を築けるのだと思うのですが…